

国際理解を視点とした授業の試み

広島県立戸手高等学校 家庭科

近年、広島県教育委員会では、グローバルな感覚を持ち、世界で活躍できる人材の育成を目指し、国際化に対応した教育を積極的に展開することを求めている。高等学校学習指導要領(家庭)においても、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増す現在、様々な地域や外国の食文化に関心を持たせることを求めている。また、2012年4月から『国際理解の視点に立った東アジア交流史教材の実践と普及に関する研究』というテーマで、大学の研究者らと国際理解の視点から、東アジア(特に、日中韓)の人やモノの交流史を中心とした教材や授業の開発を行ってきた。今回は、開発した授業を家庭科授業の中で実践し検討することを通して、教材の有効性を図るとともに、教育的要請に伝えていきたい。授業の詳細は、以下のとおりである。

- 日時：平成28年3月14日(月)
5限 13:35～14:25
6限 14:35～15:25 蔡秋英 教諭
- 場所：家庭経営室(2号館3F)
- 題材：「箸食から考える日中韓の食文化」
- 目的：古代から日本の「一衣帯水」の隣国であり、長い文化交流の歴史を持っている中国と韓国を取り上げ、生徒にとって身近である食文化(箸食文化)を中心に、日中韓の食文化の共通点や相違点を考えることを通して、外国の文化に関心を持ち、自国と外国との文化交流に積極的な態度を持つことができる。
- 全体計画：全3時間
 - 世界三大食法と箸食文化(1時間)
 - 日中韓の箸を比較し、使ってみよう(1時間)(本時)
 - 箸に関する日中韓の文化を理解しよう(1時間)
- 本時の内容：グループに分けて、「箸」の形や長さ、材料、置き方などの視点から、三カ国の箸(実物)を比較し、共通点や相違点を発見する。また、それぞれの国の食器や食卓の様子(写真)から「なぜこのような違いがあるか」を考えるとともに、三カ国の箸を使ってみる体験活動を行う。
- 授業の参観者

二谷 貞夫(にたに さだお)	上越教育大学		名誉教授
高 吉嬉(こう きるひ)	山形大学	地域教育文化学部	教授
梅野 正信(うめの まさのぶ)	上越教育大学	学校教育研究科	教授
國分 麻里(こくぶ まり)	筑波大学	人間発達科学部	准教授
金 玟辰(きむ ひょんじん)	北海道教育大学	人間発達科学部	准教授
岡田 了祐(おかだ りょうすけ)	広島大学	大学院教育学研究科	特任助教